

子どもを虐待から守る会・まつもと

News Letter *～No.2～*



発行：子どもを虐待から守る会・まつもと事務局 平成 17 年 8 月

「独立行政法人福祉医療機構（子育て支援基金）助成事業」

矢満田篤二氏講演記録

〔 7 月 2 0 日あがたの森にて 〕

演題「児童虐待と愛着障害 ～ある虐待死事件の背景～」



生後 3 ヶ月から 1 年はすごく大切な時期。

この時期に虐待を受け愛情を注がれないと、心身ともに発達が遅れる、誰にでも上辺だけの愛嬌を見せる、自分に対し権限を持つ人（母親）と慢性の権力争いを起こす、自分より弱いものを虐待する等、愛着障害を呈する。一方、乳児院の人手不足から乳児院が第二の虐待の場になりかねない事態も存在する。その一因として日本に里親制度が普及していないことが挙げられ、里子に出した後の公的ケアが充実していないこと、乳児院の運営上の問題等が関係する。反応性愛着障害とは・・・？（DSM-Ⅳによる診断基準）

5 歳以前に始まり、一定の距離以上近づくことができない抑制型（抱いてほしいけど抱いてほしくない）と、拡散した愛着、無分別な社交性を見せる脱抑制型がある。脱抑制型として、中学生の女子で性的逸脱行為が見られることも。また、子供の基本的な情緒的欲求もしくは身体的欲求の持続的無視、主要な世話人が繰り返し変わることによる安定した愛着形成の障害など病的な療育環境も要因となる。子どもには一ヶ所に根を張らせてあげることが重要。ビデオと新聞記事で里親による愛着障害の修復例を見て...

里子にきた当初はいい子ぶるが数日後に“里親試し”が始まる。母親にだけ殴る、蹴るなどし“悪い”子だが、父親の前では別人格になりいい子に振舞い、なつく。里親試しの段階で決して怒らないことが肝心。相手が信頼できると分かると、哺乳瓶を使う、おむつをあてる等“赤ちゃん返し”が始まる。思う存分させることで、子どもの心の傷がゆっくり修復される。

「in kind donation（非現金寄付活動）」

各々の人がボランティアに費やした時間、諸経費をお金に換算するといくらになるかという米国の考え。日本ではこの考えによる優遇措置が全く得られない、とも話されていました。

「公的親権制度」

『子どもは国のもので、親だけのものではない』、すなわち『子どもを育てることのできない親のエゴは通せない』という米国の考え。



～矢満田さんより
ご紹介の本～
『子を受けない母
・母を拒否する子』
ヘネシー・澄子著
学習研究社出版
1,500円

矢満田さんは最後に、まとめとして

- ・ 愛着障害に悩む母親に、“もっと子どもを愛せ”と叱責するべきでは決していない。
 - ・ 0～2 歳の子どもには一定の愛情を受け続ける権利がある。
- と再度強調されて、講演を閉じられました。

講演会終了後、たくさんのご意見、ご感想をいただきました。その一部をご紹介します。

・虐待は親子関係と周囲のサポートの問題と思っていた。しかし、背景に愛着障害があるとは知らなかった。乳児院から実の親や里親が引き取り、やる気と責任感と愛情を持って接していったとしても、愛着障害の壁に突き当たってしまうことは惜しいと思う。愛着障害についても世の理解が深まり、サポートしていけるようになれば良い。市民活動としても、医療者としても出来ることとやるべきことはたくさんあると思う。

・愛着障害という言葉は耳にしていたが、こんなにも虐待と根強く関係しているものとは知らなかった。子どもの行動を観察する観点がこんなにもちがうものとは思っていなかった。愛着障害という知識が定着したなら、犠牲になる子どもはぐっと減るだろうと思われる。これから、本日のお話を胸において、子どもと関わっていきたいと思う。

・今回新聞を見て初めて参加。ビデオをおりまぜた分かりやすい講演だった。子どもにとって親から受ける愛は本当に大事なものだ痛感した。矢満田先生の考え方・実践力に感銘を受けた。

・「公的親権」という概念と、その重要性について初めて学ばせて頂いた。子どもは親だけのものではないという考え方も、現代の日本には必要ではないかと考えさせられた。

・まず、子どものありのままを見て、親や家庭のせいにしないで、その子を自分の子と思うくらいの気持ちで、見守ってあげたいと思う。矢満田さんのおっしゃるように、攻め込まない言葉、決めつけない言葉、こちらに『助けて』と言ってくれる人間になりたいと思う。



なお、今回のアンケートの中に、『この会は何を目指しているのでしょうか、全く見えてきません。一体何をしたいのでしょうか?』という、厳しい指摘がありました。一市民の客観的なご指摘として、真摯に受け止め、今後も地道に取り組んで行きたいです。

当日は参加者約70名、遠くは長野や軽井沢からお越し頂き、本当にありがとうございました。



コラム

おすすめの一冊

「お母さんはしつけをしないで」

長谷川 博一



草思社出版
1,300円

お母さんの熱心なしつけが、不登校、ひきこもり、いじめ、非行、少年犯罪等を引き起こしている・・・！！

少子化と家庭の孤立化により、子どもをめぐる環境はさまざまがわりしています。昔のしつけ論はもう通用しません。家庭でのしつけが、子どもの自主性を奪い、人間関係を歪ませ、子どもを自己否定に走らせています。

臨床経験豊富で、スクールカウンセリング、非行少年の心理鑑定等でも実績のある著者が、「しつけの後遺症」の具体例を多数あげながら、お母さんたちに、「もっと手を抜いて、楽になりましょう」と呼びかけます。子どもたちは成長途上にあり、「いま、できなくてもいい」のです。と。現代版しつけの極意は「しつけようとしなないしつけ」。しあわせな子育てに役立つ「お母さんの救急箱」付きです。

理事紹介

副会長 原田 謙

自分の本職は児童精神科医であり、仕事柄多くの虐待の子ども達に会う機会があります。彼らの受けたところの傷は容易に癒されるものではなく、最大の治療はその予防にあると考え、この会の立ち上げに参加した次第です。多忙ゆえ機会が限られますが、できる限りの参加をしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。



メール利用方法、ホームページの御案内

こんにちは。別に詳しいわけでもないのに、パソコン関係を任されている川崎といいます。メーリングリストもホームページもあるのにいま一つ生かしきれていない感のある現状をなんとかしようと、今回は貴重なスペースをもらって使い方を一から説明します。

まずはEメールです。守る会のメールアドレスは mamorukai@hotmail.co.jp です。

ここにメールを送ると事務局へ届きます。ちなみに、管理は私がやっております。

さらにメーリングリスト（以下 ML）というものが存在します。
ML とは、ある一人がメールを送ると、その ML に参加している人全員に届くというものでして、いちいち一人ずつに送る手間を省いてくれるたいそう便利なものです。
イマイチ ML が使われていない理由としましては、不特定多数の知らない人へメールを出しにくいなど、いろいろあると思います。もちろん事務局のほうからいろいろ情報を発信して、みんながメールを出しやすい雰囲気をつくることは必要なのですが、同じ会員なのに ML に参加している方としていない方で情報に差が出るのはどうかと考えるとちょっと悩む部分があります。しかし ML が便利だということは確かです。携帯電話のメールアドレスでも登録できますし（ただし添付ファイルは見れません） まだ参加していない方へもご利用をお願いしたいと思います。現在参加している会員は 46 名です。
さて、この度新しく ML を作り直しました。有料サービスを使うのもう変な広告は入りません。既に参加されている方には余計な手間を取らせることになり申しわけありませんが、改めて登録していただくようお願いいたします。メールアドレスを新しく作られた方や変更された方は、事務局へご一報いただければすぐに登録します。どうぞ皆様の積極的なご参加、そして発言をお待ちしております。

それでもやっぱり知らない人にメールは出しづらい、でも言いたいことは山ほどある。そんな方には匿名で書ける掲示板がお勧めです。
守る会の URL は http://www.geocities.jp/kodomo_mamoru/ です。
この最初の画面の一番下に右のようなイラストがありますので、入り口
ここをクリックすると、めでたくゲストブックへ入ることができます。
ゲストブックへ入ってしまえば、コメントを書いてその下にある『ゲストブックに書く』というイラストをクリックするだけです。名前を書く必要はなく、空白でも OK です。



長々とお付き合いいただきありがとうございました。どなたかの一助になれば幸いです。メールだ、ホームページだ、そんなものは所詮道具です。うまく使って私たちが本当にやらなければならないことに力を注ぎましょう。それでは、さよーなら。

今後の活動予定

8月19日（金）	夏の懇親会	松本市大手 「アクアポーノ」 19:00～
9月7日（水）	理事会	療育センターらいふ 19:00～
9月21日（水）	定例会（学習会）	こども病院 19:00～ ・アメリカでの愛着障害治療の研修報告（上小路） ・虐待防止学会北海道大会報告
10月19日（水）	公開講座	松本市 M ウイング 講演会講師：広岡智子さん 〔子どもの虐待防止センター 専任相談員〕
11月16日（水）	定例会（学習会）	こども病院 19:00～ ・岸和田事件から学ぶ
12月16日（金）	冬の懇親会	
1月18日（水）	公開講座	講演会講師：少年保護施設「立正園」百瀬さん
2月15日（水）	定例会（学習会）	こども病院 19:00～
3月5日（日）	総会（公開講座）	松本市 M ウイング 13:00～16:30 講演会講師：大日向雅美さん〔恵泉女学院大学 教授〕

お知らせ

- ・ 4月～8月に行われた理事会の議事録を同封致します。

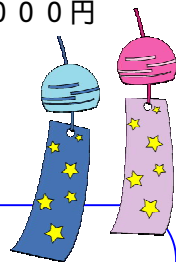
- ・ お詫び文と次回定例会（９月）のご案内が別プリントで入っています。
- ・ 各講演会をビデオ録画してあり、貸し出し可能です。借りたい方は事務局までご連絡下さい。

会員募集について

子どもを虐待から守る会・まつもとでは、活動に参加して下さる新規会員を募集しています。私たちと一緒に活動しませんか。入会・活動内容に関するお問い合わせはFAX：0263-28-6882、事務局090-3235-9726（留守電）までお願いします。

〔年会費〕	個人正会員	3,000円	学生会員	1,500円
	賛助会員	一口 3,000円	団体正会員	30,000円
〔振込先〕	郵便局口座	00560-1-79660		
	名義人	「子どもを虐待から守る会・まつもと」		

へんしゅう後記



太陽がギララ、汗が目。静寂-。「あ！とれたっ」。あみの中ではみんなゼミ大騒ぎ。しゅんくんの心臓バクバク。つかむとセミってすごい力で、こわい。でもムシカゴの中ではなんだか元気ないセミ。「あとで逃がしてあげるのよ」ママもちょっとこわいみたい。「えーえ、せっかく...」。広い宇宙、他の星でもなく、そのちっぽけなセミだけを選んだセミの魂（いのち）。それには意味があるのでしょうか。人でも同じ。苦しくても生きて行くその意味とは。守る会に何ができる？まず『人は愛されれば愛することができる』を信じて、やさしさのチェーンつないで行きます。しゅんくんにたっぷりジュースもらったあのセミは、高いこずえで鳴いてます。いのち燃やして...

News Letter 第2号 お読み頂きありがとうございました。

子どもを虐待から守る会・まつもと事務局

〒390-0827 松本市出川2-24-14

Tel 090-3235-9726

Fax 0263-28-6882

e-mail: mamorukai@hotmail.co.jp

URL: http://www.geocities.jp/kodomo_mamoru/